

人物語り

ひとものがたり

258人分の1人

女性消防士

あきば まい
消防士 秋葉 麻衣さん



▽PROFILE

1984年生・蓮沼小学校卒・蓮沼中学校卒・県立東金高等学校2003年3月卒業・湘央生命科学技術専門学校(救急救命学科)2006年3月卒業・海老名総合病院勤務(神奈川県)2008年3月まで・小学3年生から中学卒業までクラシックバレエを習う



先輩の指導を受けながら救急車内での救命処置訓練に熱が入る

東消防署芝山分署に勤務する、秋葉麻衣さんを訪ねました。

秋葉さんは、山武郡市内の消防士で初の女性消防士。そして、現在活躍する消防士258人中たった一人の女性消防士です。

秋葉さんは、高校3年生の時、医療関係の仕事に進もうと思っていたところ、消防の救急隊員(救急救命士)の仕事を知りました。事故現場に誰より先に駆けつけ、その場で対処するその姿がとても格好よく思えたそうです。自分の思いとは裏腹に、高校の担任や両親は「消防は危険な仕事と猛反対」。しかし、夢を持ち続けた秋葉さんは、専門学校を卒業後、救急救命士の国家試験に合格。専門学校在学中の平成17年に山武郡市広域行政組合消防本部を受験しましたが、不合格。昨年の3月まで海老名総合病院に勤務しました。2年間の病院勤務を経験した後、平成20年4月に山

武郡市広域行政組合消防本部の女性消防職員第1号として採用されました。「試験に合格した時は、本当に嬉しかったです。今では両親も喜び応援してくれ感謝しています」と嬉しそうに話します。

消防職員としての基礎知識、技術、体力など全般を身につける教育として消防学校初任科があります。秋葉さんは、昨年4月から9月までの約6か月間、男性多数の中、男性と同様な訓練をこなした時、自分の非力さと、体力の必要性を改めて認識したそうです。訓練は辛かったそうですが、一度も辞めたいと思つたことはなかったそうです。

10月からは、山武郡市広域行政組合消防本部警防課(東金市)に配属され、報告書作成やデータ管理など事務全般のデスクワーク中心の仕事をしました。現場を支えるための基礎的な勉強ができ、目指す現場のイメージが湧いてきました。

今年4月からは、東消防署芝山分署に勤務。救急隊は3人で現場に向いますが、一人前の救急隊員として乗務するために一定期間の研修期間が必要です。現在は、救急隊3人の他1人の合計4人で出動しています。

「何をするにも『初めての女性』としての目がついてまわり、プレッシャーはありますが、入ったからには、自分が満足するだけではダメ。周囲に認めてもらいたいし、次の女性が続いて入ってくれたらいいと思っています。そのためには、わたしが开拓者として他人に教えるには経験を積んでどんな場面でも対処できるようにならなければいけないと考えています。また、女性にしかできない、きめ細やかな心のこもったサービスを与えられたらと思っています」と、まだ消防職員としては、非力なところも見えますが、早く先輩についていけるようにと頑張る姿は、とてもたくましく輝いていました。